

# 『光るバツクル』

かえってこなかった焼き物少年の話

一幕五場

初演

一九九九年一月九日

修道小学校学芸会

三年生

キャスト

一場「しゅうとう小学校3年A組の教室」

スタッフ

|         |      |           |
|---------|------|-----------|
| 子どもたち全員 | 子ども1 | バンブーダンス数人 |
| 子どもA    | 子ども2 |           |
| 子どもB    | 子ども3 |           |
| 子どもC    | 子ども4 |           |
| 子どもD    | 子ども5 |           |
| 子どもE    | 先生   |           |

二場「むかしの高本窯の仕事場」

|                 |              |  |
|-----------------|--------------|--|
| マサオ             | 父            |  |
| (高校生ぐらい)        | 母            |  |
| フミコ             |              |  |
| (小学校六年生)        | 郵便配達員1       |  |
| 山根先生            | 子ども1・2・3・4・5 |  |
| 三場「戦時中の高本窯の仕事場」 | 郵便配達員2       |  |
| マサオ             | 父            |  |
| フミコ             | 母            |  |
| 四場「戦後の高本窯の仕事場」  | 郵便配達員3       |  |
| 父母              | 子ども1・2・3・4・5 |  |
| 五場「もとの教室」       | 郵便配達員3       |  |
| 子どもたち全員         | 先生           |  |
| 平戸さん(マサオと二役)    |              |  |

かんとか  
きやくほん  
しょうめい  
こうか音  
大道具  
小道具  
いしょう  
ピアノ

一場「しゅうとうしゅう学校3年A組の教室」

先生  
じゃみんな、きょうの町たんけんのけっかをほっぴょうしてください。

子どもA  
宮上さんの所へ行つて来ました。お茶に使うとうきをつくっているところです。ねんどのしゅるいのこと、それに、「きくもみ」というねんどのもみかたをみせてもらいました。

子どもB  
石山さんの所へ行つて来ました。ろくろと、そのときにかう「とんぼ」というどうぐをみせてもらいました。はたらいっているひとは、しんけんにやっています。

子どもC  
平戸さんの所では、焼き物にぬる色のまぜかたなどをみせてもらいました。わたしがはいれるぐらいの、おおきなつぼもありました。

子どもD  
焼き物の学校へ行きました。おにさんがしんせつに、あんないしてくれました。鉄色が、あんなにきれいとは、おもいませんでした。

子どもE  
とうきをうつているところにきました。とうきがいつぱいありました。きれいにならべてありました。今熊野や滋賀県からもしいれていっているといっていました。ひとりではたらいていました。

先生  
みんな、よくべんきょうしてきましたね。これでもうみんな発表しましたか。

子ども5  
先生、高本さん所へ行つたグループがまだです。

じっさいの、たんけん学習のかんそうを、せりふとして、ふくらめます。

発表に使ったビデオやデジカメ写真をスクリーンに映す。

先生

じゃ、まっているあいだ、「いるかはザンブラコ」やりま  
すか。

（子どもたち、「いるかはザンブラコ」にあわせて、  
バンブーダンスをおどりだす。）

ピアノ

（しばらくして、ひとりの子どもが走って入ってくる。）

おーいみんな、おみやげもらってきたぞ。

ほらこれ、まちたんけんで、焼き物の高本さんとこにいった  
ら、これくれはった。

手に紙づつみを持ってい  
る。

なにがはいってるの。

みんな、おどりをやめて、  
見る。

あけてみて。

うん。（つつみをあける。）

（なかから、光る石のような物が出てくる）

なんやこれ。

（みんな、のぞきこむ。）

なんやろなあ。

きれいやなあ。

（そのしゅんかん、白い光が光って、つぎにまっくらに  
なる。）

フラッシュ光

——暗転（ぶたいのでんきを消して、まっくらにする。）  
あんてん

二場「高本さんの作業場」  
さぎょうば

六十年前。戦時中の高本さんの家。  
せんじちゅう

（マサオがろくろをまわしている。）

ろくろ

あれ、ここは、どこ。

むかしにもどったみたい。

すみません、おじゃまします。

きこえないのかなあ。すみません…

（マサオにさわろうとして、びっくりする。）

あれ、さわれないよ。それに、この人、ぼくたちに気づい  
ていないみたい。

ほんとだ。（マサオにさわろうとする。）

ぼくたち、タイムマシンで、むかしにもどったのじゃない。

きつとそうだ、あの石が光ったとき、タイムマシンに乗っ  
てしまったのだよ。

この石か。

あっ、もっていたの。

父 (マサオ、とよびながら、父が登場。)  
(子どもたち、舞台そでにかくれるように、さる。)

マサオ、学校の勉強は、すんだのか。

(マサオ、うん、とうなづく。)

そうやって、焼き物にせいをだしてくれるのはうれしいけど、学校の勉強もガンバらんとあかんぞ。

(母と妹、登場。)

母 マサオ、ごはんできたし、たべや。毎日ようがんばるな。

フミコ おにいちゃん、ごはんたべよ。

(マサオ、うんとうなづいて、やっとうろくろをとめる。)

フミコ おにいちゃん、あとで私に勉強と、ろくろもおしえてね。

(そこへ、山根先生、登場。)

山根先生 こんにちは。

フミコ あっ、先生。

母 先生、いまおかえりですか。いつもフミコがお世話になっています。

母

おとうちゃん、修東小学校の先生。マサオもならって、先生のおかげで、マサオもフミコも絵がすきになったんですよ。

父

お世話になってます。おかげさまで、マサオ、焼き物も好きになってくれています。毎日、学校が終わったら、ろくろのまえにすわっていますねん。

山根先生

おとうさん、よかったですね、高本窯のあとつぎができて。

父

ありがとうございます。

母

今は、赤紙がいつくるかと、そればかりがしんぱいで…

フミコ

きのう、となりの、おにいちゃんのとみだちが、兵隊さんにいかはってん。それで、おにいちゃん、げんきないねん。

父

マサオは、音楽も得意で、音楽隊で、その友達を、元氣よく送ったですよ。

山根先生

そうでしたか。じゃ、マサオ君、がんばってください。

(マサオ、うなづく。)(しつれいします。)

フミコ

先生、また来てください。さようなら。

母

じゃ、みんな、ごはん、たべましょう。

(みんな、上手にさる。)

山根先生、下手にさる。

|        |                                          |
|--------|------------------------------------------|
| 子ども2   | (だれもない舞台に、子どもたちが出てくる。)                   |
| 子ども3   | やっぱり、ぼくたちは、むかしにきてしまったんだ。                 |
| 子ども4   | それも、わたしが、まちたんけんでインタビューにきた高本さんのおうちみたい。    |
| こども5   | あれ、まただれかきたみたい。                           |
| 郵便配達員1 | (子どもたち、さる。郵便配達員が登場。)                     |
| 母      | 高本さん、高本さん、郵便ですよ。                         |
|        | (はい、といいながらでてる。)                          |
|        | (郵便配達員、ふうとうをわたして、ふかぶかとおじぎをしながら、けいれいをする。) |
|        | (母、じつとその手紙を見て、たたずむ。)                     |
|        | (子どもたちが顔を出す。)                            |
| 子ども1   | マサオさんが、へいたいさんにとられるのかな。                   |
| 子ども2   | そうみたいだね。                                 |
| 子ども5   | 焼き物づくりは、どうなるの。                           |
| 暗転     |                                          |

自転車に乗って

|                 |                                                                                                                          |
|-----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三場「戦時中の高本窯の仕事場」 |                                                                                                                          |
| 郵便配達員2          | 父がろくろのまえにすわっている。<br>横で、フミコが見ている。<br>そこへ、郵便が来る。                                                                           |
| フミコ             | フミコさんに中国から手紙です。<br>ありがと。おにいさんからだわ。                                                                                       |
| (マサオ)           | (手紙を見る。)                                                                                                                 |
| フミコ             | (声だけ) ふみちゃん、げんきですか。おにいさんもげんきです。6月27日は、たんじょうびですね。もう、高校生ですね。すくないけど、おこづかいをおくりました。なにかかってください。中国の花をデッサンしました。きれいでしよう。じゃ、さようなら。 |
|                 | ほんと、きれいな花。おにいさんは、あいかわらず、絵、じょうずね。わたしもがんばろつと。                                                                              |
|                 | (フミコ、手紙を持って、かけあしでさる。)                                                                                                    |
|                 | (つついて、ゆうびんがくる。)                                                                                                          |
| 郵便配達員2          | 高本さん、ゆうびんです。(静かに敬礼してたっている)                                                                                               |
| 母               | はい(といいながらでてる。手紙を見て、うずくまる。父もぼうぜんとする。フミコもでてきて、うなだれる。)                                                                      |
| 暗転              |                                                                                                                          |

父、手をとめて、フミコのほうを見る。

かげの声

「いんちゅうほうわ」という花のデッサン

父、ろくろをまわす。

マサオ戦死の知らせ

四場「戦後の高本窯の仕事場」

（うなだれてすわる父と母）

マサオが戦死して、ろくろを回す元気が出てきいひん。

わたし、がんばるわ。

すまんなあ。もう、せいもこんもつきてのう。

（そこへ、ゆうびんが）

郵便配達員3  
高本マサオさんに、そくたつ。

母  
マサオに。（手紙を見る）

おとうさん、これなんやろ。「とつきよきよかしよ・陶器製バックル」で、かいたあるけど。

父  
これやこれや、このことや。（木の箱を持ってくる。なかから、光る石のような物を取り出す。）  
これ、陶器のバックルや。ベルトにつけるかなぐや。マサオが、戦争に行く前まで、いっしょうけんめい考えて作ってたもんや。戦死してから、とつきよがおりるなんてなあ。

母  
でも、おとうさん。これ、この手紙で、なんか、天国の、マサオからの手紙みたいやなあ。

父  
ほんまやなあ。

バックルの入った木箱

フミコ

お父ちゃん、うち、これもろてもええか。うちのたからもんにすんねん。

それから、おとうちゃん、うちにもつと、焼き物づくり、おしえてくれへん。うち、おとうさんのあとをついで、三代目になるし。

父母

ほんまか。

父  
よしわかった。おとうちゃんも、きばるで。

暗転（子どもたち、登場）

子ども1  
おい、みんな見たか。これや、この石や。これと同じ石やんか。

子ども2  
その石。いや、その陶器のバックル、高本さんのおばあさんにもらってきたんやな。

子ども1  
そうや、今日町探検で、高本さん<sup>たんけん</sup>とこにいったとき、おばあちゃんからもらったんや。

子ども3  
そうか、ということは、あのフミコちゃんて、高本のおばあちゃんのことなんや。

子ども4  
そんな宝物、もうたらあかんのとちがう。

子ども1  
そうやなあ。そうでも、これきれいやなあ。

（といったしゅんかん、白い光が光って、場面が真っ黒になる。）

暗転

フラッシュ光

スポットライトのなか、登場

五場「もとの教室」

（５人の子どもが、舞台中央に、スポットライトをあびて、たっている。全体が明るくなり、クラスのみん  
なが、５人をかこむ。）

あんたら、どこへいったん。

急に消えて、また急にあられて、どうなってんの。

あんな…、うーん。みんな、うそやいうし、ゆわんところ。  
それよりも、あんな、この石な。バックルいうねん。すごい  
パワー、もってんねんで。めっちゃ、きれ… おつとあぶ  
ない、また光るとこやった。

なにぶつぶつゆうてんねん。ほんま、それ、とうきのバッ  
クルきれ…（子ども１が口をてでふさぐ）

そのあとゆうたらあかんねん。

あつ、平戸さんのおにいさんや、町たんけんるとき、いつ  
ぱい教えてくれはった人や。

みんなが絵付けしたお皿ができたよ。

わあつ。きれいやなあ。（手に手に自分の焼いたお皿を持  
って。）

歌「光るバックル」を歌う。

幕

焼き上がったお皿が入っ  
た箱を持って登場

あとがき

この劇が生まれるもになった取材先と  
子どもたちが「町たんけん」（焼き物）で  
お世話になったおもな方々

高木岩華さん  
陶芸・岩華  
窯元・真葛（宮川香斉）  
岡人形工芸  
府立陶工高等技術専門校  
石川製陶所  
平野陶房  
祝峰窯・井野祝峰  
陶もの 田村菜山  
岩室清一商店  
陶器 岡田暁山商店  
陶器 竹虎堂  
陶器 野村昭嘉堂  
陶器 陶好堂  
陶器 酒見

ありがとうございました。

総合的学習の「しゅうどうまちたんけん」は、子どもたちに、自分の住む町を見つめ直して、我が町  
に息吹く伝統産業「焼き物」に気づくことをめあてに、学習しました。日々通り過ぎ、気づかずに過  
ごしていた、町の息吹を肌で感じたことと思います。

たまたま、私が直接お話をおうかがいすることができました岩華さんの亡兄、政雄さん遺品をもとに、  
このお話を書きました。

その陶器製のバックルを初めて見せていただいたときの、その光の美しさが、この作品のモチーフ  
になっています。二六歳という若さで逝かれた政雄さんの無念もその光の中に見ました。

三年生にとっては、少し難しいテーマになっていますが、焼き物づくりの今後の発展を祈念して、  
あえて、この機会に劇にすることにしました。

今年は、修道小学校創立一三〇年。記念になれば幸いです。

（渡辺俊三）